

松本一哉

3rd album

「無常」

2022 ▶ 2023

RELEASE TOUR

UTURU 上映 & ライブパフォーマンス企画

音楽家・サウンドアーティスト 松本一哉による 3rd アルバム『無常』リリースツアー
による上映 & パフォーマンス企画を“cafe EMANON”にて開催。
波紋音などの造形物や非楽器を用い、演奏と偶然に起こる環境音との境界線を無く
していき、聴く事に没入する音体験へとご案内します。

2022.11.12(土) 13(日) 開場 17:30 / 開演 18:00
at cafe EMANON

〒961-0905 福島県白河市本町9 ※駐車場がございませんので近隣の公共駐車場等をご利用ください

出演 | 今野裕一郎、松本一哉

料金 | 2,500 円

予約 | 電話 : 0248-57-4067

Mail : staff@junbishitsu.jp まで、日にち・お名前・予約人数を明記の上ご連絡ください



松本一哉

音楽家・サウンドアーティスト・ドラマー

打楽器奏者の経験と、環境音との音源制作で培った音を鳴らす・聴く経験を基に、環境ごとにあるモノ・造形物・自然物・身体・装置など、本来楽器では無いモノも用いて多様な音表現を行う。自身で起こす音と環境音との境界線を無くし、音に没入させる即興表現を追究している。

これまでに「水のかたち (2015)」「落ちる散る満ちる (2017)」「無常 (2022)」の3作品をミニマル・アンビエントの名門レーベル SPEKK からリリース。

偶然に起こる環境音との即興による音源制作を基に、映画・映像作品・舞台公演・商業施設への楽曲制作、全都道府県演奏ツアー、コロナ禍にライブ公演を行わず人に会いに行く事を目的に企画した「人の音を聴きに行くツアー」、空間展示、サウンドインスタレーション、展示会場に滞在・生活して音を展示し続ける動態展示、今野裕一郎が主宰するパフォーマンスユニット「バストリオ」との企画や公演に参加や、2021 年から北海道知床で開催されている「葦の芸術原野祭」の立ち上げから実行委員長として参加するなど、音による表現を軸に活動を展開している。

 <http://www.spekk.net>

<http://www.horhyhm.com/>



◇新作音源について

「無常」は音楽レーベル **SPEKK** からリリースした私の 3 枚目のソロ作品です。2015 年に同じく **SPEKK** からリリースした 1st アルバム「水のかたち」は、元々は四季を通した水の音との即興演奏作品として制作していたのですが、冬のパートを入れられなかったことから、冬の音のみで構成された「水のかたち」と対になる氷をテーマとした作品を作るところに至り、2014 年から 2022 年までの 9 年の歳月をかけて録音制作しました。リサーチを含めると 10 年以上になります。

凍結した湖や流水などが起こす音と共に、本来楽器ではないモノなどを使用し即興で 1 発録音をしたり、色々な仕掛けを用いて環境そのものに働きかけて録音した作品です。

本作は 2 枚組になっていまして、Disc1 は氷上で起こる事との演奏や働きかけを基にし、Disc2 はハイドロフォンを使用し氷下で起こっていた事との演奏や働きかけを基にした作品構成になっています。

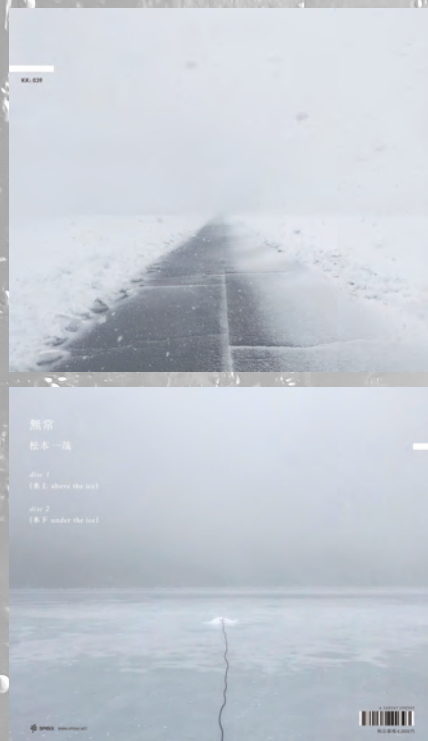
ダウンロード版ではなく盤を購入していただくと、32 ページあるブックレットには、録音の合間に撮影した写真が複数掲載しています。また、映画監督の今野裕一郎くんが撮影してくれた録音時の動画が見られる QR コードが付いています。また、曲ごとの解説はしていませんが、作品制作の日々の事など、テキストも掲載しています。

こちらの QR コードからトレーラー音源が試聴出来ますので、試聴してみてください。

松本一哉



↑TRAILER



松本一哉 3rd アルバム「無常」
170 X 140MM 変形紙ジャケット入りの 2 枚組 CD
+ 32 ページカラーブックレット
録音時の映像風景動画への QR コード付
収録時間：DISC1 68' 07" / DISC2 68' 12"
品番：KK039 レーベル：SPEKK
販売価格：4,000 円
発売日：2022 年 11 月 11 日

Recorded and produced during 2014 – 2022 All
recordings and editing by Kazuya Matsumoto
Mastered by Taylor Deupree
Photography by Kazuya Matsumoto

◇映画上映について

●作品紹介

音楽家の松本一哉は、8 年かけて制作してきた音源を完成させるため、流水を目指して旅に出た。自然を相手に、たった一人で録音と演奏を重ねる松本に、友人でもある監督が同行。世界自然遺産の知床で、新たな音を探し、二人で旅を続ける。目の前にある世界。そこにはいつも音が存在している。北海道で全編ロケ撮影を行い、人間と自然の間にある、何かを想像する生き物の記録。タイトルはアイヌ語で「その間」という意味。

●監督のこぼれ

音楽家の松本さんは自分の作業場に他人を入れない強い意志を持ってました。自然相手の録音は繊細で、人が近くにいると気配をマイクが拾ってしまう。彼自身も繊細な人です。そんな彼から新しい音源完成のため流水の音を録りにいくので撮影してほしいと頼まれました。驚きと共に嬉しい誘いでした。知床での撮影は過酷でしたが、豊かな素晴らしい日々を過ごし、わからない、捉えられないものと対峙することが自分たちにとっての表現だと強く感じることができました。そんな生き物たちの記録です。



UTURU 予告編

撮影・録音・編集 / 今野裕一郎
被写体・音楽 / 松本一哉
[2021 年 / 日本 / 48 分 / HDV / カラー]



今野裕一郎

1981 年生まれ。バストリオ主宰、映画監督、演劇作家。

横浜国立大学経済学部を中退後、京都造形芸術大学映像・舞台芸術学科卒業。大学在学中にはドキュメンタリー映画監督の佐藤真に師事。ドキュメンタリー映画の制作を行う。劇映画の監督としても活動しており、初の劇場公開長編映画となる「ハロー、スーパーノヴァ」は池袋シネマ・ロサやドイツ・フランクフルトの映画祭で公開された。演劇界では宮沢章夫が主宰する遊園地再生事業団で 2 本の作品に映像・出演で参加。バストリオを 2010 年に立ち上げ以降、次々と作品を発表してきた。

<http://busstrio.com>

音楽家・サウンドアーティスト 松本一哉による 3rd アルバム『無常』リリースツアー
による上映 & パフォーマンス企画を“cafe EMANON”にて開催。

波紋音などの造形物や非楽器を用い、演奏と偶然に起こる環境音との境界線無く
していき、聴く事に没入する音体験へのご案内します。